



学園祭企画 シンポジウム

恋愛と結婚、 その変遷を 考える

～家族・儀式・男女の意識から～

戦後70年、日本は結婚大好き国から
カップルレス社会へと大変貌。
なぜなのでしょう。あなたはと思う？

平成27年 **10月25日** (日)
※学園祭開催中

東京家政大学 板橋キャンパス

120周年記念館 2階 120-2C講義室

14:00～16:00 (開場 13:30)

定員200名 (申込不要・入場無料)

登壇者

板本 洋子氏
NPO 法人全国地域
結婚支援センター代表

信田 さよ子氏
原宿カブリンセンター所長
臨床心理士

古市 憲寿氏
社会学者

コーディネーター
樋口 恵子
女性未来研究所
所長

総合司会
伊藤 節
女性未来研究所
副所長

企画・主催：東京家政大学女性未来研究所

共催：東京家政大学博物館

恋愛と結婚、 その変遷を 考える

～家族・儀式・男女の意識から～

団塊の世代が結婚するころ、日本人の婚姻率は97%に達し「世界一結婚好きな国」と言われました。それが今や50代の非婚率男子20%女子11%。まずは世界一の結婚ざらい？と言ってもいいでしょう。出生率が世界最低レベルなのも無理はありません。なぜ日本の若者は結婚しないのか、日本の結婚に未来はあるのか。今、日本の結婚を語るのもっともふさわしいメンバーの大討論会です。

登壇者より

NPO法人全国地域
結婚支援センター代表



原宿のメリグセンター所長
臨床心理士



信田 さよ子 氏

撮影：松本路子

社会学者



古市 憲寿 氏

今、「婚活」と言われている結婚支援を戦後から今へ、そして今後へと追いかけていきます。個人の選択である結婚が、時代の都合にあわせた問題解決の装置とされてきたことが見えてきます。進行し続ける未婚化・晩婚化。「出会いがない」という若い世代の叫びのなかにどんな「結婚の壁」が潜んでいるのでしょうか。新たな婚活や結婚の形とは何か考えてみませんか。

カウンセラーとして長年DV、虐待、引きこもり、摂食障害などの夫婦・親子の問題にかかわってきました。かすかな幻想すらも打ち碎かれるような現実を見るたびに、家族って、そして結婚ていったい何だろうと思わずにはいられませんでした。そのようなシビアな現実立脚した視点から恋愛や結婚についてお話しできればと考えています。

最近、『保育園義務教育化』という本を書きました。僕は、まだ結婚もしていませんし、子どももいません。そんな人間がなぜ「保育園」の本を書いたのか？それは、日本の「子ども」や「結婚」「育児」をめぐる状況が危機的だと思ったからです。いま日本で一番大切なこと、そして未来を変えるかも知れない希望は、「家政」の中に隠れているのかも知れません。

東京家政大学博物館 秋の特別企画展

嫁ぐ日・晴れの日・華やぐ日 —和装・洋装の花嫁—

江戸時代後期から昭和時代までの和装の婚礼衣装を中心に、19世紀後半ヨーロッパのウェディング・ドレスなども展示します。

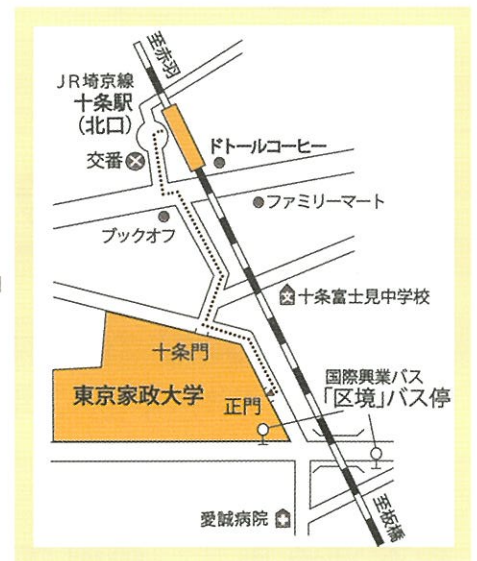


期間：平成27年10月15日(木)
～11月19日(木)
時間：9:30～17:00
会場：東京家政大学博物館
百周年記念館5階展示室

交通 アクセス



- ・JR埼京線「十条駅」下車徒歩5分
- ・都営三田線「新板橋駅」下車徒歩12分
- ・JR王子駅より国際興業バス「板橋駅」行きにて8分、バス停「区境」下車徒歩1分



東京家政大学女性未来研究所は、建学の精神である「自主自律」の道を歩み、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」を實踐できる女性を育成するとともに、グローバル時代にふさわしい、女性の社会貢献を探究することを目的として、平成26年4月より当大学板橋キャンパスに設置されました。初代所長として樋口恵子名誉教授が就任いたしました。